

○平成26年度外部評価委員会の評価結果

平成26年9月11日に外部評価委員会を開催し、委員5名全員が出席して、事前評価1題、中間評価1題及び事後評価1題について評価がなされ、その評価結果は下記のとおりです。

なお、評価方法は5段階評価で

- 5：非常に高く評価できる。
- 4：高く評価できる。
- 3：評価できる。
- 2：あまり評価できない。
- 1：評価できない。

としています。また、総合評価が2点以下の課題は、原則として廃止又は中止することとしています。

1 事後評価

- ・ 鹿児島県におけるつつが虫病及び日本紅斑熱患者の病原体検出に関する調査研究
— 患者及び宿主からの分離と感染地域リスクマップの作成 —
(実施期間：平成23年度～25年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の達成度	4	4	4	4	4	4.0
② 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	5	3	4	5	4.0
③ 学術的意義又は技術開発に対する寄与の程度	4	5	4	4	4	4.2
④ 県民のニーズに対する対応及び波及効果	3	5	4	4	5	4.2
⑤ 調査研究成果の取りまとめ及び公表の状況	3	4	3	3	3	3.2
⑥ 今後の発展性	4	5	4	4	4	4.2
総合評価	4	5	4	4	4	4.2
(主な意見)						
本県に多数例のつつが虫病、日本紅斑熱が発症した経緯があり、患者の痂皮からのサンプリングが有用であるとの結果は、臨床現場に適切な管理方針を提供するものあるとの意見がありました。また、マダニが媒介するSFTSも本県で発生しており、人命にもかかわることから、本調査研究の精度を上げるとともに継続し、リスクマップ作成、感染予防等についての県民への広報を急ぐ必要があるとの意見もありました。						

2 中間評価

- ・ 調査研究課題：県内産食品のカビ毒（アフラトキシン）汚染実態調査
(実施期間：平成24年度～26年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究の進捗状況	4	4	4	3	4	3.8
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	3	4	4	2	3	3.2
③ 調査研究継続の妥当性	4	5	4	4	5	4.4
総合評価	4	4	4	3	4	3.8
(主な意見)						
毒性の強いアフラトキシンが土壌中の産生菌により、食品へ供給されることがあること、又、サトウキビへの供給の形態も分かって来ていることから、アフラトキシン低減が可能となるような対策の提案を望むとの意見がありました。また、アフラトキシンの食品汚染の実態の把握は、食品のリスク管理の立場からも必要性があり、今後は、他の食品も含め幅広い調査研究を望むとの意見もありました。						

- 調査研究課題：地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響に関する調査研究
(実施期間：平成24年度～26年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究の進捗状況	3	4	4	3	5	3.8
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	4	4	4	2	4	3.6
③ 調査研究継続の妥当性	4	5	4	5	5	4.6
総合評価	4	4	4	4	4	4.0
(主な意見) 池田湖は地域の重要な水源でもあり、水質保全の必要性からも水質循環に関する調査・研究の意義は大きいとの意見がありました。また、全層循環やFe、P等の水質挙動は大変興味があるところであり、併せて、湖水の流れを具体的にモニターする方法があれば、更なる理解が進み、気候の影響を調べることができるのではないかと意見もありました。						

3 事前評価

- 調査研究課題：鹿児島湾における水質挙動及び水塊の移動に関する調査研究
(実施期間：平成27年度～29年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の妥当性・合理性	4	4	5	4	4	4.2
② 調査研究内容及び調査研究体制の妥当性・合理性	4	4	4	4	4	4.0
③ 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	4	4	4	5	4.0
④ 学術的意義又は技術開発に対する寄与・期待の程度	4	4	4	4	5	4.2
⑤ 県民ニーズに対する対応状況	4	4	4	3	4	3.8
総合評価	4	4	4	4	4	4.0
(主な意見) 海底噴気があり半閉鎖的ともいえる鹿児島湾奥部は、他に類を見ない環境のもと多数の生物が生息するとともに、養殖も行われていることから、本研究の意義は大きいものと考えられるとの意見がありました。また、過去に鹿児島湾で行われた調査等を踏まえ、必要な場所をより細やかに調査する必要があるとの意見もありました。						

- 調査研究課題：食品中の多環芳香族炭化水素に関する調査研究
(実施期間：平成27年度～28年度)

評価事項	委員					総合評価 (平均値)
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の妥当性・合理性	4	4	4	4	4	4.0
② 調査研究内容及び調査研究体制の妥当性・合理性	4	4	4	3	3	3.6
③ 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	5	4	4	4	4.0
④ 学術的意義又は技術開発に対する寄与・期待の程度	4	5	4	4	3	4.0
⑤ 県民ニーズに対する対応状況	3	4	4	4	5	4.0
総合評価	4	4	4	4	4	4.0
(主な意見) 県民に非常に身近で興味あるテーマであり、また世界で日本食が認められつつある昨今、地元物産の販路拡大のためにも必要な研究と考えるとの意見がありました。また、多環芳香族炭化水素の分析法の確立が極めて重要であり、国内外の研究機関とも連携し、評価法を含めた取り組みが必要であるとの意見もありました。						

○ 評価結果に対する対応

今後は、平成26年7月24日開催した「内部評価委員会」の評価結果も含め、以下のとおり評価結果及び委員の御意見等を反映させた調査実施計画の検討・実施及び調査結果を県民のニーズへ反映できるよう対応を検討することとしています。

- ・ 事後評価を受けた1課題については、調査を継続するとともに精度をあげ、精度の高い感染リスクマップの作成などにより、県民等へのわかりやすい情報提供を図っていきます。また、日本紅斑熱と同じマダニが媒介している重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの調査研究にも、成果を反映することとしています。
- ・ 中間評価を受けた2課題のうち「県内産食品のカビ毒汚染実態調査」については、より詳細な調査を行うとともに、低減化対策を検討していきます。また、「地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響に関する調査研究」については、これまでの水質調査を継続するとともに、気温や風等の気象要件と水循環の関連性について、解析するとともに、水循環と水質挙動の因果関係について、新しい技術の導入等により解明を進めることとしています。
- ・ 事前評価を受けた2課題のうち「鹿児島湾における水質挙動及び水塊の移動に関する調査研究」については、既存のデータを基にサンプリングの地点、水深、時期等を検討するとともに、海流や河川からの流入水の影響等の諸条件を考慮して、鹿児島湾奥部の水質挙動や水塊の移動のメカニズムを解明していくこととしています。また、「食品中の多環芳香族炭化水素に関する調査研究」については、多環芳香族炭化水素の分析方法を確立するとともに、多環芳香族炭化水素の食品中の含有状況や含有するメカニズムの調査を実施し、評価方法や低減化対策を検討していくこととしています。